

## [第3回アフリカ諸国で活躍する日本人医師・研究者の連絡会議]

### 報告書

(平成29年7月作成)

【会 期】平成29年(2017)7月25日(火)

【時間帯】PM 3:30 ~ PM 7:00

【会 場】憲政記念館第一会議室

【言語等】日本語(英語通訳なし)、邦人以外の参加も許容(open meeting)

【参加費】Admission Fee Free (懇親会のみ参加費)

【主 催】(一社)アフリカ開発協会(AFRECO)、東京都千代田区紀尾井町4-1  
新紀尾井町ビル3階

Voice 03-3511-8911, URL <http://www.afreco.jp/>

#### 【報告書】

サブサハラ・アフリカ諸国で活躍する日本人医師・研究者の連絡網を立ち上げようという企図の会議が平成28年8月25日、ケニア共和国ナイロビ市の Fortis Suites (Ground Floor) で開催された。この企画をより深化・発展させるため第2回目の会議を本年1月10日に東京で行った。2度の会議を踏まえて今後の当連絡会の方向性を定め、具体的なプロジェクトの第一歩を踏み出すため事務局では医師・医学研究者、日系医療機器メーカーと意見交換を実施してきた。当会議として今後、我が国の行政とどのような連携が可能となるのか、行政の取組を医・産学官の当事者で共有する場として憲政記念館にて第3回サブサハラ・アフリカ諸国で活躍する日本人医師・研究者の連絡会議を開催した。

本会議は、名井良三(アフリカ開発協会副会長、元アンゴラ大使)からの開会の辞で始まり、5名の行政官(外務省アフリカ部長 大菅岳史様、経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課国際展開室室長 岸本堅太郎様、外務省国際保健政策室室長 日下英司様、内閣官房健康医療戦略室参事官補佐 広瀬真一様、同室参事官補佐 田中良知様)と援助機関担当者(JICA 人間開発部次長 瀧澤郁雄様)及び日本人医師(諏訪の杜病院院長 武居光雄様)からこれまでの日本政府の医療・保険分野での海外展開の戦略や実績についての報告と情報の共有・自由討議を行った。

また、当協会からは、アフリカの医療を取り巻く様々な当事者と意見交換を行ってきた結果として、まずはアフリカにメディカルエンジニアの育成機関を設置するという構想を提案し、加えて本年7月10日に実施した京都医療科学大学の視

察報告を行った。当日は日本人医師・医学研究者、在京アフリカ大使館、医療機器メーカー担当者、医療法人関係者等約 60 名が集まり、熱心に意見交換を行った。

まず、第 1 部で大菅岳史様（外務省アフリカ部長）から「アフリカにおける保健分野の重点政策～TICADVI保健分野の成果及び今後の取組を中心に～」について基調講演いただき主に TICAD で設定されたゴールをどのように達成していく計画なのかをお話いただいた。次いで岸本堅太郎様（経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課国際展開室室長）に「医療の国際展開に向けた経済産業省の取組」という演題で講演をいただき、現場レベルで TICAD のゴール達成に向けてどのような具体的プロジェクトをアジア各国の行政や関係機関と推進しているかお話いただいた。

第 2 部ではケニアでクリニックを運営されている武居光雄様（諏訪の杜病院院長）をモデレーターとして、日下英司様（外務省国際保健政策室室長）に「国際保健分野における日本の貢献」について外務省としての取組を、瀧澤郁雄様（JICA 人間開発部次長）には「アフリカ保健分野における JICA の取組」をご説明いただき、武居医師からの現場の声も合わせて議論を行った。

第 3 部では広瀬真一様、田中良知様（内閣官房健康・医療戦略室参事官補佐）より、「医療国際展開への取組」と題して、海外医療展開を実施するための執行体制や新たに本年 6 月に発足した産官学・医の連携プラットフォームについてご報告いただいた。また、報告事項として事務局から本年 7 月に実施した京都医療科学大学視察の様相を紹介し、今後プロジェクトの推進に当たっては専門性を有する機関との連携が不可欠であり、前向きに連携いただける機関への協力を要請した。



図. 積極的な討議を行う参加者 (憲政記念館にて)

討議後、矢野哲朗（アフリカ開発協会会長）が閉会の辞を述べ、連絡会議がより具体性を持つためにはプロジェクトを組成して第一歩を踏み出す必要性があり、参加者への一層の協力を呼びかけた。その後、懇親会に移って閉会となった。

（文責：一般社団法人アフリカ開発協会事務局）